

講演 「給食施設における災害時の栄養×食支援 ～平時からの備え・心構え」

講師 公益社団法人 日本栄養士会
専務理事・災害支援チーム JDA-DAT統括 下浦 佳之氏

1. はじめに

SDGs（持続可能な開発目標）の17の項目に栄養の言葉がないのは何故か？私は17の項目全てに栄養が関連し、栄養が下支えをしていると考えている。災害時にもSDGsの「誰一人取り残さない」の考えはとても重要であり、発災から対応、復旧復興、平時の準備、減災、防災と様々な領域があるが、これら全領域全てに管理栄養士・栄養士の役割がある。

2. JDA-DATの活動について（令和6年能登半島地震でのJDA-DAT栄養・食支援活動）

東日本大震災をきっかけに「日本栄養士会災害支援チーム JDA-DAT」を設立。現在、全国に5,565名のスタッフとリーダーが活動している。災害発生時には、被災した都道府県栄養士会からの依頼を受けて日本栄養士会が被災地にJDA-DATを派遣する。JDA-DATは保健医療活動チームの一組織として、多職種チームとの連携協働及び管理栄養士等行政栄養関係者の関与の下、地域や避難所の実情を十分に考慮した栄養・食生活支援活動を継続的に実施することを責務としている。被災地の行政栄養士の指揮下に入るという点がJDA-DATの大きな特徴である。

ここで能登半島地震での活動を紹介する。1月2日に石川県庁に到着。県の健康増進課、県栄養士会、厚生労働省健康課栄養指導室と協議し災害支援を開始。日本栄養士会災害対策本部及び特殊栄養食品ステーションの設置。1月3日には災害支援緊急車両JDA-DAT号を配備。同日、公立能登総合病院（DMAT拠点）に液体ミルクを搬入。発災直後は賛助会員に連絡がなかなかつかず、特殊栄養食品ステーションへの支援物資の依頼調整は1月4日にようやく行えた。その後、石川県総合スポーツセンター内に設置さ

れた1.5次避難所には調理設備がないため、摂食嚥下障害のある高齢者に、レトルト食品や一部宅配弁当の介護食等を衛生管理を行いながらDMATの指示を受け提供をした。

3. 食のBCP（業務継続計画）の作成について（給食施設としての備え・心構え）

BCPとは事業継続計画・業務継続計画と訳され、自然災害、テロ、感染症等不測の事態が発生しても重要な事業を中断させない、または中断しても可能な限り短い期間で復旧させるための方針、体制、手順等を示した計画のことである。2017年3月の厚生労働省の通知により災害拠点病院などはBCP作成が義務化、2024年4月までに介護施設などにおいてもBCP策定が義務化となった。厚生労働省が介護施設・事業所における自然災害発生時の業務継続のガイドラインを示しており、様式もホームページからダウンロードできる。まだ作成されていないところはこれらを参考に早急に作成していただきたい。

また、施設全体のBCPは作成していても栄養に特化したBCPは作成していない施設が多々あり、栄養や食に特化したBCPの作成が求められている。地域防災における災害対応の考え方は、自助・共助・公助。自らの身（施設）は自らが守る＝自助。地域のことは地域（施設間連携等）で守る＝共助。行政機関による救助活動や支援物資の提供＝公助。公助が円滑に実施されるには共助との連携が効果的である。

災害時のライフライン途絶状況においては、まずは施設の冷蔵庫にある食品を使用し足りないものを備蓄食品で補うようにする。また、平時に食べられない備蓄食品は災害時にはより食べられないので、施設の意見を聞きながらローリングストック等で更新する。通所施設でも備蓄は必要。特殊栄養食品の行政の備蓄状況は十

分ではない。栄養士会の特殊栄養食品ステーションの取組みもあるが、自らの施設で備蓄してほしい。

管理栄養士・栄養士・調理師の役割・責務は、危機管理時にも安全安心な食事を提供し適正な栄養管理等を実施することが必要で、そのために日頃から非常時を想定し準備しておかなければならない。

4. 今後の課題について

BCP 作成後は、定期的に訓練を実施し関係職員へ周知をしながら課題を洗い出し、実現可能か、実現が難しければ修正をするといった PDCA サイクルを回すことで、施設・事業所に適したより良い BCP が作成できる。

5. おわりに

BCP において重要な取組みは、各担当者を決めておく、連絡先や必要な物資を整理しておき、これらを組織で共有する。また定期的に見直し必要に応じて研修訓練を行うこと等である。災害時の受援や支援活動にはシナリオがなく、知識や技術を活用して対策を講じる。そのためには多職種との連携が重要となる。

JDA-DAT にご興味のある方は研修を受講していただき、また行政の方には自らの地域で災害が起こった際に JDA-DAT の指揮官となっただけのよう研修を受講していただきたい。

我々の大きな使命は「どんな時でもあたたかい食事提供と支援に向けて」である。

(文責 公衆衛生 T・M)